

目次

第1章 大霧山ナップと堂平山クリッペ － 1910年代～1930年代

- 1.1 ナップとクリッペ
- 1.2 ナップとクリッペー明治末期～大正末期
- 1.3 大霧山ナップと堂平山クリッペ
- 1.4 大霧山ナップと堂平山クリッペーその後の経緯

第2章 跡倉クリッペ － 1940年代～1970年代

- 2.1 跡倉問題
- 2.2 堆積岩か火成岩か
- 2.3 藤本治義の着眼＝跡倉ナップ（跡倉推し被せ）
- 2.4 跡倉層とは
- 2.5 藤本説への疑問
- 2.6 藤本説から10年
- 2.7 藤本説から20年

第3章 下仁田構造帯 － 1960年代

- 3.1 分布と岩石
- 3.2 地史および近隣地域との関係

第4章 奈良梨断層と金勝山石英閃緑岩 － 1970年代とその前後

- 4.1 藤本説（1953年）が出るまで
- 4.2 藤本説（1953年）が出てから
- 4.3 原地性の認定＝異地性の否定
- 4.4 奈良梨断層と中央構造線
- 4.5 吉見丘陵と中央構造線
- 4.6 異地性の認定＝原地性の否定

第5章 小岩体発見の努力と室内分析の威力 － 1980年代とその後

- 5.1 小岩体の発見
- 5.2 寄居－小川地域の跡倉層
- 5.3 寄居－小川地域の火成岩類・変成岩類
- 5.4 吉見地域の変成岩類
- 5.5 神川－皆野地域の火成岩類・変成岩類
- 5.6 下仁田地域の火成岩類
- 5.7 下仁田地域の変成岩類
- 5.8 下仁田地域の西＝佐久地域で
- 5.9 1980年代・'90年代前半の成果

第6章 中央構造線 － 1980年代～2010年頃

- 6.1 中央構造線
- 6.2 下仁田地域、寄居－小川地域の中央構造線
- 6.3 関東山地北縁部の中央構造線
- 6.4 関東山地北側の中央構造線

- 6.5 関東平野下の中央構造線
- 6.6 地質時代の中央構造線
- 6.7 内帯起源説から次の段階へ

第7章 クリッペのハイマート（ふるさと） － 1980年代～2010年頃

- 7.1 放射年代
- 7.2 緑色岩メランジュ
- 7.3 ペルム紀石英閃緑岩と付随するホルンフェルス
- 7.4 白亜紀前期の花崗岩類
- 7.5 白亜紀前期の変成岩類
- 7.6 白亜系
- 7.7 白亜紀後期・古第三紀の火成岩類・火砕岩類・堆積岩類
- 7.8 吉見変成岩類
- 7.9 失われた地帯
- 7.10 古領家帯

第8章 クリッペの構造とナップの移動 － 1990年代～2010年頃

- 8.1 不整合か断層か
- 8.2 異地性の貫入境界
- 8.3 クリッペ内部の地質小構造
- 8.4 ナップの移動の向き
- 8.5 クリッペ内部の地質構造
- 8.6 ナップの地体構造とその形成過程
- 8.7 ナップの移動過程
- 8.8 ナップの形成時期

第9章 花崗岩質の礫の不思議 － 研究の歴史と共に

- 9.1 花崗岩地域の謎
- 9.2 白亜系中の礫
- 9.3 白亜系中の砂粒
- 9.4 古第三系中の礫
- 9.5 新第三系中の礫

第10章 跡倉問題の現在 － 2010年頃以降

- 10.1 跡倉問題の現在
- 10.2 大霧山ナップと堂平山クリッペに代えて
- 10.3 跡倉不整合か跡倉ナップか
- 10.4 下仁田構造帯はナップか
- 10.5 比企丘陵の領家帯－ナップとしての姿
- 10.6 小岩体の発見と分析－その後
- 10.7 跡倉ナップと中央構造線
- 10.8 ハイマートの見直し
- 10.9 ナップの構造と移動
- 10.10 ナップからクリッペへ－その傍らで
- 10.11 跡倉問題の「これまで」と「これから」